

はたはた

八峰町教育長 千葉良一書

Vol. 8

八峰町関東ふるさと会 会報

2017年10月発行



石川地区のソバ畑

第4回HATAA-1グランプリ 投票時間の締め切り前に早々完売し、 連覇を飾る

八峰町関東ふるさと会会長 神馬 信一



会員並びに八峰町の皆様方には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃よりふるさと会の活動に格別のご理解とご厚誼に預かり厚くお礼申し上げます。さて、近年首都圏では、八峰町の物産販売や消費拡大の行事に盛況を得ております。その中に、秋田県と鳥取県のハタハタ料理を競う「HATAA-1グランプリ」があります。昨年は、築地の豊洲移転で注目されている東京都中央区に11月19日に開業した商業施設「築地魚河岸」において、11月25日と26日の2日間開催され、八峰町の「しよつたる鍋」が2年連続優勝を飾りました。

同グランプリは、首都圏で秋田県と鳥取県のハタハタの知名度向上と消費拡大を図る目的で行われ、グランプリを競うのは今回で4回目となります。八峰町の「ハタハタ入りしよつたる鍋」は初代チャンピオンの栄冠を受け、2回目は惜しくも準優勝だったが、3回目と4回目は連覇を飾ることができました。

このしよつたる鍋は、八峰町の沖合で水揚げされたハタハタ、同町の白神ネギ、松岡食品のなべ用豆腐を、秋田県漁連北部統括支所女性部ひより会で製造したしよつたる(魚醬)で煮込んだ「オール八峰町」の食材にこだわった一杯です。

大会初日は晴天だったが、前日夕方から降った雪で、会場の床のウッドデッキは凍結状態。八峰町のブースはあいにく

入り口側で人通りが多く、水を掛けての床の解凍が大変でした。来客で混雑する出入口付近は食事用テーブルが少なく、場所的には条件が悪いと思えたが、お客さんは必ず当ブース前を通るので、逆に八峰町の知名度アップにはよかったです。出が少なく、販売は約5時間で167杯と予想外に少なく、仕込むほうは余裕でしたが、翌日の人出が心配になりました。

2日目も好天に恵まれ、朝10時からスタート。最初ハタハタの量が多くて煮えるのに時間がかかったため、販売スタート時にはお客さんは長蛇の列。調理は大鍋を4個駆使。煮込んだネギ・豆腐・汁を井によそい、別の鍋からハタハタ(雌・雄1匹ずつ)を入れて提供。

10時から15時までの販売予定だったが、13時過ぎにはハタハタが売り切れ。2日間でドンブリ500杯が完売でした。13時30分ごろにようやくとれた遅い昼食中に、スタッフの誰かの「15時まで投票できるとだよね」の一言に、完売の喜びも束の間、不安に変わる。

15時過ぎから結果発表。売れ行きは好調だったが、煮込む間にお客の待ち時間があったこと、投票時間を残して早々と完売してしまったことで、今回の優勝は難しいと不安がいつぱい。最後に「優勝八峰町」と呼ばれた瞬間、スタッフの皆さんの笑顔にホッとしました。大会でした。

ふるさとを呼んでくる

八峰町長

加藤 和夫



ふるさとと会員の皆様には、ご健勝のことと拝察申し上げます。

常日頃、故郷に熱い想いを寄せてご支援いただいておりますことに心から感謝申し上げます。

さて、九月まで放映されたNHK朝ドラ「ひよっこ」は、茨城県の山村で育ったヒロインが高校卒業と同時に集団就職で上京し、中小企業で働き、各地方出身者と寮生活を送る場面等がありました。

当時を思い出し、感慨深くご覧になった方も多かったのではないのでしょうか。

私も昭和三十三年春、中学卒業直後であどけなさが残る同級生が首都圏へ旅立つ時、互いに涙で別れたことを昨日の様に思い出され、目頭が熱くなりました。

日本経済が戦後復興から高度成長へと向かう時代に「金の卵」ともてはやされ労働力として、地方の若者が東京へ東京へと押し流されました。

人口構成最多を占める団塊と呼ばれる世代も経済成長の支え手として担ぎ出され、その時々々の社会構造に大きな影響を与えてまいりました。

その世代も七、八年後には約八百万人が七十五歳を超える年代になり、介護や医療等のあり方を巡って波紋を広げております。

しかし、その世代が生き抜いてこれた一人一人の道程を聞くにつけ、決して平坦ではなく、筆舌に尽くし難い苦勞の

連続ドラマがあったことを窺い知ることができ、朝ドラ以上に感激しました。

現在、全国で起きている地方の人口減少は、この世代の都市流出の時から始まったことは自明の理であります。

推計では、後二十年ちよつとでふるさと八峰町の人口は約四千人台になるとされております。

全国の自治体が地方創生を叫び、少しでも人口減少に歯止めをかけようと諸施策を掲げ、その実現に全力を挙げていることはご承知のとおりであります。

わが町の移住対策もその一つでありますが、増え続ける空屋を借り、その住宅を改修して、八峰町に住みたい人に貸し出しています。

少しずつではありますが、八峰町が好きだと言つて移住する人の活用が進んできております。

会員の皆様からも今一度ふるさとの価値を見直し、移住のきっかけを探つて頂くことを期待しております。

また、今年度、町の最も大きな事業は、雇用の場を創る「菌床椎茸」事業の推進で、菌床製造施設、培養棟、栽培研修施設等を年内に完成させる予定です。

来年度は、現在の生産能力を一・五倍に拡大させ、椎茸十億円産地化を目指して新規生産者の研修・育成に取り組んでまいりますので、意欲あるふるさと会員の挑戦もお待ちしております。

ふるさとは、人も自然も会員皆様が一人も多くふるさとに回帰されることを期待しております。

コメ作り農業からの脱却を

八峰町議会議長

芦崎 達美



今、町内の田んぼでは水稲の碧く生い茂る光景が色鮮やかに広がり、梅雨時の小雨がその碧さを一層ひきたてています。

平成30年からは、米の減反政策が廃止され、これまで長年国が進めてきた農業政策が大きく転換されます。コメ農家にとっては大きな変革を迎える過渡期の中で、田植えからの一連の農作業が一段落し、いつもの年であれば「さなぶり」の行事にいそしんでいるところであるが、

来年の事を思うとのんびり楽しむ余裕がないのではないのでしょうか？

町にとっては、一次産業の農林漁業の中で、林業・漁業が低迷する中、農業は国の政策の恩恵もあつて、比較的大きな生産を上げています。

しかし、農業従事者は高齢化を迎え、後継者不足にも拍車がかかり、耕作放棄地は増加の一途を辿っています。

今、秋田県では、稲作に偏りがちの農業からの脱却を目指し、野菜や花きの栽培に力を入れています。

八峰町でも会社を設立し、若い人を雇用して野菜作りや花作りに積極的に取り組む農業法人が増えてきています。国の制度をうまく活用し、積極的に農業改革に取り組みうとするその姿勢には、目を見張るものがあります。

結びに、会員皆様のご多幸とご活躍をご祈念申し上げます。

今、町では県との共同事業で菌床しいたけのホダ製造工場の増設事業を行っています。

コメ作りだけの農業からの脱却として始めた菌床しいたけ栽培。この菌床しいたけ栽培農家への更なる支援をと始めた県との共同事業の成功が期待されることです。

少子高齢化の波が押し寄せる地方の一町村にとって、一次産業の進展・観光開発の推進、移住定住対策、空き家問題、独身者への結婚支援等々問題・課題は山積みでありますが、皆様方のふるさと・郷土を守っていくためにも議会も行政と一体となり、町の発展のために努力していく覚悟であります。

ふるさと会の皆様にもご助言・ご指導いただければ幸いに思うところであります。

今後とも町とふるさと会の皆様の繋がりがさらに深まり、様々な活動を通して町の発展につながることをご期待いたします。

最後に、会員の皆様のますますのご健勝と関東ふるさと会のご繁栄をご祈念申し上げます。



たくさんの方が移住しました！

	参加者	移住者	参加者の主な出身地
第1回	9	1	
第2回	8	5	埼玉県、神奈川県、
第3回	10	2	東京都、奈良県、
第4回	7	1	岐阜県、千葉県、
第5回	8	1	茨城県、宮城県
合計	42	10	

※複数回参加している方もいます。

写真説明

- ① ツリーデッキ前で(第3回) ② 東屋前で(第5回)
 ③ 茅葺き住宅前で(第2回) ④ DIYに集中する参加者
 ⑤ 移住者交流会



八峰町でしか体験できないメニューや、食べることでできない食事などを提供し、好評を得ている「八峰町お試し移住ツアー」。これまでのお試し移住ツアーについて紹介します。

お試し移住ツアーは、人口減少を抑制し、活力あるまちづくりにつなげるため策定した「八峰町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の重点的な取り組みの一つとして実施しています。

移住ツアーを通して、移住前の様々な不安を解消し、本格的な移住につなげるため、これまでに次のようなツアーを企画しました(主な内容)。

- 第1回(H28・3・19～21)
山本合名酒蔵見学、先輩移住者との交流会、キッチン・棚のDIY
- 第2回(H28・6・3～5)
きりたんぼ・そば打ち体験、茅葺き屋根置き替え体験
- 第3回(H28・10・14～16)
ぶなツリーデッキづくり、料理上手な移住者宅で夕食交流会

- 第4回(H29・2・10～12)
杉林で薪割り・木登り体験、キッチンDIY、はちもり観光市での食事
- 第5回(H29・6・23～25)
茅葺き屋根置き替え・東屋づくり体験

このうち、第5回お試し移住ツアーでは、江戸時代の紀行家、菅江真澄が「桃源郷」と例えた手這坂集落を舞台に開催町の活性化を目的にH28年に設立された移住者や町民などで構成されるまちづくり団体「HAPPY TURN(ハッピーターン)」メンバーや有志の方などからご協力いただき、茅葺き屋根の葺き替えと、誰でも利用できる東屋づくりを行いました。参加者からは、「興味深い体験ができた」「優しく丁寧に接してもらいありがたかった」「新鮮な魚介類に感激した」といった感想をいただきました。今後も、八峰町ならではの体験メニューや食事などを提供し、町の魅力をより多くの方に知ってもらい、移住したいと思ってもらえるようなツアーを企画していきたいと思えます。

詳しい様子は八峰町・お試し移住ツアー YouTube(YouTube)をご覧ください

【八峰町への移住を支援する制度】

- 定住奨励金
住民登録した日から1年経過後、1年の間に申請する。単身で15万円、世帯で30万円補助します。
- 定住用住宅取得等助成金
住民登録した日の前後1年以内に購入・改修した住宅の費用の1/2(上限50万円)を補助します。
- 移住者提案型リフォーム事業
町が借上げた空き家を、移住者の提案により450万円以内でリフォームし、貸し出します。
- 雇用創出活動支援事業
八峰町に事業所または住所がある中小企業等に対し、雇用奨励や創業支援等の補助金を交付します。

移住者の声

菊地 武さん

(H28.9 神奈川県→中浜)

「移住ツアーに参加して、人の優しさや自然に魅かれ移住しました」と菊地さん。

移住前は早速中央研究所に勤務。現在は町臨時職員として生薬農園の管理をしています。機械の修理が得意で、近所の方から修理を頼まれるなど、地域にもすっかりなじんでいます。



茅葺き替えをする菊地さん

「はっぽううまし」ブランド えごま味噌

阿部 昌子
(ぬくもり工房
代表)
(八峰町水沢在住)



「日本のユニークなネーミングをもつ料理をテーマに、作り方や発祥の歴史を番組で紹介したいのですが」。平成27年の寒風吹きすさぶ日、NHK総合「妄想ニホン料理」制作担当者からこんな依頼がありました。

南蛮べっちょよ。「南蛮(唐辛子)の辛さに思わず「べっちょよ」をかく(泣いてしまう)ことから名付けられた峰浜の伝統料理は、この番組のコンセプトにピッタリでした。テレビの前の視聴者は、いくら妄想したところで、この摩訶不思議な料理の姿かたちを思い描くことはできなかったでしょう。こうして、ひよんなことから、南蛮べっちょよが楽しく愉快地全国に発信されたのでした。

とに異なっていて、さもだしを入れるのが水沢地区、キャベツを入れるのが石川地区、といった具合に豊富なバリエーションをもつのが、南蛮べっちょよの特徴です。南蛮べっちょよの味の決め手は、エゴマみそ。地元で栽培されたエゴマに、みそ、砂糖、酒等をあわせ、唐辛子で辛さを調整します。このエゴマみそが、前述の番組放送を機にクローズアップされ、現在「はっぽううまし」ブランドとして八峰町内で販売を始めたところですよ。

「ぬくもり工房」手作りの天然熟成みそ「白神っ娘(しらかみっこ)」にエゴマをブレンドした逸品は、南蛮べっちょよ用の合わせみそに使えるほかにも、野菜やごはん、パンなどに付けても美味しくいただけます。

必需品とされ
てきました。
急な集まり事
があると食材
も手に入らず、
各家々で保存
している塩漬
けにしたキュ
ウリ、菊、さ
もだし(きの
こ)等を持ち
寄って食した
ものです。レ
シピは地区ご



価格:480円(100g)

白神山地と日本海、大自然の幸に恵まれた八峰町。八方どちらを向いても美味しい食材が手に入る。この豊富な食材をいかしてつくられた食品に「はっぽううまし」とブランド名をつけて製造・販売している。えごま味噌についてのお問い合わせは八峰町観光協会 ☎ 0185-76-4100まで。

おふくろの味 なた漬

鈴木 輝志郎
(埼玉県さいたま市在住)
(岩子出身)



いわゆる「おふくろの味」は、母の愛情も勿論であるが、中・高校生の頃の育ち盛り・食い盛りの頃は何を食べても美味かった。その頃の味だからこそ大人になった今でも、喉が・ほっぺたが覚えていたのでしよう。

定年を機に、運動を兼ねて家庭菜園(100坪)を始めた。スーパーでは手に入らない、水分たっぷりの太いキュウリや漬物の材料「沢庵用の大根、野沢菜、しゃくし菜」が欲しくて。年間を通じて30種ほどの野菜の他、秋田から移植した水ブキ、ウド、食用菊、ミョウガ、行者ニンニク等を栽培。

以下に簡単ななた漬づけのレシピを紹介します。

【材料】

- ① 大根4本(青首大根お勧め)・子供用には皮をむいたほうが良いが大人は皮のままが食感よし。一切れ30g程度の乱切り(出刃包丁等、刃の厚いものの利用がベター)。
- ② 塩 大根に対して重量比1.5~2%程度(好みで加減する)。
- ③ 糀(スーパーで板状のものがある)一枚。
- ④ ご飯(うるち米の冷や飯で良い)2合(適当で良い)。
※ 糀や塩等と混ぜやすくするため、ざるに入れ水でほぐし、水切りをする。
- ⑤ 隠し味として、・砂糖(少々)・好みで赤トウガラシ。

【漬け方】

- ① 材料の②③④⑤を一緒に良く混ぜる。
- ② 材料の①と前項①を良く混ぜる。
※大きめのビニール袋に材料全部を入れて外から揉むように混ぜ、容器に入れるとよい。
- ③ 重石は材料の2倍位とし、水が上がって来たら1倍程度の重さに減らす。

【ポイント】

- ① 5日目頃に全体を攪拌(上下の材料を入れ替える)する。
- ② 10日目頃から味見をする。浅漬け好みの方は7日目頃からでも……
- ③ 好みに漬け上がったら、発酵を止めるため冷蔵庫や外部の冷たい場所へ。
※完全に漬け上がるまでは水を捨てない事。

奇跡の絶景 ウユニ塩湖とチチカカ湖を旅して

戸田 眞里 (神奈川県横浜市在住)
(中浜出身 旧姓 白木)



古希を迎えた今年、冒険旅行に挑戦しようとして一大決心。

2月念願のボリビア・ウユニ塩湖とチチカカ湖へ出発。サンタクルスからはインカ時代の遺跡や世界遺産の建造物や教会を観光しながら飛行機やバスの移動で5日目に到着。翌朝早速長靴に履き替え4WDにて塩湖の観光へ出発。塩湖は秋田県と同じくらいの大きさにビックリ。一面真っ白な塩湖の景色はまるで雪上走行のようで滑るのでは？と錯覚に。強烈な太陽の照り返しで、車内でもサンングラスは必要。辺りはホワイトアウト状態。1時間くらいで水のある場所に到着。



世界の絶景の映像や写真特集で紹介された景色は本当なのか？そして目にした景色は正に「絶景・天空の水鏡」そのもの！風もなく鏡のような水面に映る空の青、雲の白は天地が融合しまるで別世界。これこそ見たかった景色、思わず飛び上がり絶叫しました。やがて水平線に沈む太陽は強烈な光を放しオレンジ色から紅色のグラデーションになり湖面に反射し、雲に反射すると360度が夕陽の世界に気がつけば自分もすっかり包み込まれていて最高に幸せな気分になりました。やがて水平線が薄暗くなったので帰ろうと走り始めた次の瞬間前方にさらなる絶景が！

沈んだはずの太陽の光が復活し雲が次々と染まり暗闇が再び色を取り戻したのです。その色は更に濃く激しくまるで剣のように変化して

いくのです。この様子はさすがの現地のガイドさんやドライバーさんも奇声をあげるほど。はっと我に帰り、しまい掛けていたカメラを取り出し撮影に成功。朝日、日中、夕陽、星空とウユニ塩湖

の景色を堪能しました。こうして私の古希の冒険旅行は最高の思い出になりました。

便利さの中にも 一抹の寂しさを感じる今日この頃

柴田 正秋 (神奈川県川崎市在住)
(八森出身)



大勢の高校の友人に見送られ父親に連れられて、東能代駅より夜行急行列車「津軽2号」に乗って東京に上京してから、はや、47年余り過ぎてしまいました。当時は夜行列車での移動が中心で終着駅は上野駅でした。列車の座席は今のように入り心地がよいものではなく、すぐに、おしりが痛くなったと記憶しています。また、上野駅は北の玄関口と呼ばれ井沢八郎の歌った「ああ上野駅」の情景そのものでした。しかし、今の上野駅は当時の面影はまったく感じられません。故郷へ帰省する際の「指定席」の確保ができず、自由席乗り場に2時間ぐらいい前から並んで、漸く座席を確保しました。今はインターネット等で簡単に指定席の申し込みができ、電車の本数も多いため容易に座席が確保できます。

故郷の思い出としては、家族や近所の人達と一緒に楽しんだ小学校の春の運動会、親戚一同で頑張った田植えや稲刈り、夏休み期間中に楽しんだ日本海での海水浴、近所の坂で滑ったスキー(竹スキー)やソリ遊び等があります。今は観光施設や娯楽施設が数多く出来て楽しみも増しています。その反面、母校(小学校、中学校、高等学校)は統合で昔の立地場所や校名が変更となつていきます。また、皆と遊んだ田んぼは宅地用にかわり、そばを流れていた小川(鮒を取ったり蛍を見たりした)はなくなり、唱歌「故郷」に歌われているような情景が失われつつあります。また、白瀑神社の例大祭における盛大な「宵宮」や「みこしの滝浴び」が懐かしいです。現在は「みこし」の担ぎ手不足と聞き、都会とはずいぶん違うと感じます。私は故郷への帰省時は秋田新幹線を利用し、秋田駅からは「リゾート白神」を利用します。特に「ボックス席」にゆったり座り、周りの景色(特に日本海)を見ているとなんとも言えない気持ちになります。しかし、電車(当時は汽車と呼んでいた)やバスの本数も格段に少なくなり不便を感じます。東京も2020年のオリンピックに向けて着々と準備がすすめられ、変化しようとしています。時代とともに変化する東京や我が故郷の様子を見ると、便利さの中にも一抹の寂しさを感じる今日この頃です。

退職後は保育所で、可愛い子ども達と楽しい日々を過ごしています

八峰町関東ふるさと会幹事 飯田 良子

(千葉県野田市在住)
(茂浦出身 旧姓 山本)



還暦を機にご縁があり、ふるさと会役員会に参加させていただいています。

故郷を離れてすでに40数年経過していますが、今でも自分が育った情景が昨日のこのように鮮明によみがえります。

両親の死を契機に高齢者サービスに就職

私は、都内の幼稚園に5年間勤務し結婚退職、その後、専業主婦となりました。田舎の両親が比較的若い年齢で亡くなったことがきっかけとなり、13年間の専業主婦から高齢者の医療・看護・介護サービスを複合的に提供する、医療法人(千葉県)と民間(東京都)の会社に就職し、約20年間勤務しました。現在は定年退職し、野田の市立保育所で保育士パートとして働いています。

その人を尊重したサービスを提供したい

高齢者に関わる仕事を始めたころは、高齢化問題がクローズアップされています。専業主婦だった私が、社会の中で働き続けられたのは、その時代のニーズに合っていたのだでしょう。

病气や加齢で、介護が必要になるということは本人も家族も望んでいません。それでも人は与えられた環境の中で生きていきます。私がこの仕事をしていく上で心掛けたことは「介護が必要になってもその方らしくあるためのサービスの提供」でした。

医療にしても介護にしても、残念ながら「主体」が逆転することがあります。

患者・利用者よりもサービス提供者側の都合が優先されてしまうことがあります。人手不足やいろいろな要因もあります。もちろん素晴らしい対応をしてくださる方もたくさんいました。

この高齢者のサービス事業に興味を持ったのも、自分の両親が亡くなる経過の中で、病院の対応や高齢者サービスの在り方に疑問を持ったからでした。両親を亡くしたころは悲しみばかりでしたが、今は仕事をするきっかけをくれた両親に感謝しています。

自分が納得できる日々を送りたい

私自身も、すでに前期高齢者に近づきました。今思うことは長生きよりも、自分が納得できる日々を送りたいということです。

以前はタブー視されていた「死」という言葉も、今はあたり前のように使われています。「終活」という言葉も出てきました。「良く死ぬ」ということは良く生きるということ」という言葉があります。そうありたいと私自身も思っています。

実家は、今もホッとできる空間

八峰町には両親のお墓が、海の近くの道路沿いにあります。母は生前、冗談交じりに「あなた達も忙しいだろうから八森に帰って来た時に、車を降りずに墓参りできるように用意した」と笑って話していました。親心だったと思います。実家は空き家となり、すでに27年経過

しました。少しメンテナンスをし、時々、田舎の親戚や弟(埼玉県在住)が立ち寄ってくれるおかげで、いつ帰っても滞在出来るようになっていきます。その場所に両親はいませんが、実家という空間が私を

八森中の思い出

工藤 哲弥 (八峰町浜田在住)



初めて教員になった八森中で十一年、その後三度も出入りして二十八年間この学校でお世話になり、教職もここで終えた。それだけに思い出は数知れず、次から次へと途切れることがなく出てくる。この会報を読んでくださる方々の「ふるさと」の思い出」につながり、いくつか同郷の人達との話題になればと思います。いくつかのエピソードを取り上げてみる。

昭和二十四年、観海小と八森小との中間の椿台に木造の八中が六教室で始まりました。旧校舎には二階に通し教室があり、ここが初めて担任した学級の教室であったことは感無量。

あの頃の薪ストーブで温めた弁当の臭いは今も忘れられない。修学旅行は東京方面が多く、夜行の団体列車で、自慢の秋田米を持って行ったのにホテルのご飯がまづいと不満の生徒もいた。

三年生になると定時制の教室(一階)を借りて夜遅くまで補修をして希望校を目指した。三年生の教室が一階になった所似である。

校地周辺は家畜用の草刈り場であり、毎年春に農家の人は手入れの草焼き(野火)をしていたが、校舎の近くまで火が

ホッとさせてくれます。この八森の家もそのうち管理が難しくなり、私達兄弟の代限りとなるでしょうが、今しばらくは健康に気をつけて、時々八森での生活を楽しまたいと思っています。

来たこともあった。

私にとつて、恵まれた八森の自然はよい理科の教材であり、楽しく学習が出来た。糠森山や鹿の浦も理科の学習を助けてくれた。

そして、創立十周年記念に校歌、校章、同窓会名簿の作成に携わり、創立三十周年記念には校是『海広く心豊かなり』や記念誌、日時計など今も大事にしている宝物に巡りあえた。

通学費の全額補助で岩館中と統合、早かった学校給食と脱脂粉乳、充実した実験器具や視聴覚機器、町単独の奨学金制度など「教育の町」にどっぷり浸かって育ててもらった私ほど恵まれた者はいないと感謝している。

最後に、いつ、誰がつけたのか分からないが、先生方にはいろいろな**あだな**があった。名前は思い出せないが、あだなはすぐ出て来るから不思議である。それにしても**にんじゅ**ほど話題になる愛称も少ないだろうな。

編集部注：校内中を神出鬼没。白衣を翻しての小走り姿は正に「怪人二十面相」。その二十(にじゅう)が訛って「にんじゅ」になったそうです。

八峰町での幼少期の思い出から

庄内 俊憲（埼玉県越谷市在住）

（茂浦出身）



もう半世紀前のことになったが、私が生まれ育った「発盛（はつせい）」のことを思い起こしてみたい。

子供の時分、住所はどこかと尋ねられると、正式には「椿台」のはずであるが、その方が分かり易いためか、意味もよく分らない「ハッセイ」という鉱山名で通っていた。その住宅で私は小学校低学年まで過ごした。それまで父親がその製錬所で働いていたからである。鉱山住宅は椿地区の高台にあり、東を向けば今はもうない木造2階建ての八森中学校、後ろに糠森山とそれに連なる山々（観海小・校歌にあった「出羽丘陵」？）が、西側には糠を一寸盛ったように見える小糠森、日本海とその水平線、南寄りに天気が良ければ男鹿半島。なぜか夕日が大きく見える日もあった。

「発盛」という名は変わっている。改めて調べてみると極めて人為的で新しい名であった。今は昔のこと。発盛製錬所があった発盛鉱山は、明治20年に発見され、製錬所の操業は明治21年、明治末期には銀の生産量日本一を誇っていたそうだ。その当時は「椿鉱山」と呼ばれ、大正4年に「八盛鉱山」に改名、昭和8年に「発盛鉱山」と改名されたと言われる。因みに私の先祖は椿鉱山以前の今の岩館・小入川にあった旧八森鉱山時代から関わっていたと聞いている。おそらく八峰町の鉱山と栄枯盛衰を共にしてきたのである

う。そんな先祖とは無関係な世界に飛び込んだはずの私だが、かなり以前のことになるが、当時脚光を浴び始めた海底資源と衰退の途にあった国内鉱山のための探鉱支援事業に携わることがあり、運命的なものを感じたものであった。

鉱山住宅には、最盛期には数千人が住んでいたという。昭和30年代、団塊世代を始めとする子供達で一杯だった。観海小まで2キロ余りだが、一部は通学専用路になっていた。吹雪になると6年生らに守られながら登校した。自転車の荷台に乗つけられて、あちこちに連れて行ってもらった。勿論、鏝（からみ）で黒くなった砂浜でもよく遊んだ。小学3年になった頃に同じ校区の学校に近い家に引っ越した。当然だが中学校は逆に遠くなり、新入生の頃に面倒をみてくれたお兄さん達とも縁遠くなってしまった。

だが、そのお兄さん達の多くは上京しているはずなので、もしかしたらこのふるさと会で会えるのでは？という期待もあった。もう30年位前のことだが、そういうことが参加を後押ししてくれたかも知れない。高校同窓会への出席もこの会で声を掛けられたのが始まりだった。首都圏にお住いの八峰町出身、縁故のある皆様。年一回限定ですが、町の人・モノ・情報が集う関東ふるさと会に来てみませんか。「懐かしい顔」や何かの「きっかけ」があるかも知れませんよ。

気がつけば、ノスタルジイ

柴田 鉄博（東京都杉並区在住）

（岩館出身）



「海にあるのは、あれは人魚ではないのです。海にあるのは、あれは浪ばかり。」

（中原中也『北の海』より）

東京さ行けばなんとかなる、東京で暮らひば救われると夢見ていました。小学校の社会科で習った「裏日本」という言葉が、嫌らしく頭にこびりついていました。

冬。手を替え品を替えずに毎食続くハタハタ攻めに、必死に耐えていました。でも、ハタハタの箱を1個つくとと百円もらえるバイトは、ありがたかった。

春。新学年ということでミツマルで買ってもらったズボンが、ぬかるんだ道のスパネで汚れるのに腹を立てていました。でも、ジイさんに連れて行かれるお殿水の杉林の香りには、うっとりでした。

夏。グラランドは草ボウボウ。「ガツツリ行くどー」の声に、レフトのM君の声はすれども姿は見えず、哀しくなりました。でも、5年生のときに初めてユニホームが届いたときはうれしかった。みんな着方がよくわからずまごまごして、観海小との練習試合に遅れそうになったけれど。

秋。渋柿を漬けた樽の蓋に集まるアネコムシの大群に、うんざりでした。でも、なべっこ遠足でY子ちゃんと同じ班になると、もう完全にゴキゲンさんでした。

小学校時代。東京オリンピックの年、1年生。この年から岩館小学校でも学校給食が始まり、最初の日のおかずはカレー煮。1学年男子・女子各16名全員が、コッペパンや脱脂粉乳も含めて、おいしいおいしいと言って平らげました。それが卒業の頃になると「脱脂粉乳は臭い」、「パンがうめぐね」などとほざくようになっていました。方言は『悪い言葉』で、学校内で方言を発すると、それを聞いた生徒にカードを取られ、所定のカードがなくなると次週の掃除当番にされました。まだ、集団就職のある時代でした。

中学時代。夏、野球部の練習が終わると、バックネット裏に流れ落ちる農業用水へと我れ先に駆け寄りました。不思議なことに、誰も腹を壊しませんでした。

高校時代。朝、岩館6時36分発での通学は、辛かった。それに乗ってくる津軽の連中は、それだけで偉いと思いました。冬季の定期試験の前夜は、五能線が波をかぶって止まることを願っていました。

上京し、最初か2回目の正月の帰省時「さあ行こう、山は伐採を待っている」の看板が国道脇に立っていて、ビックリ。幸い、白神山地が世界自然遺産になり、やれやれ。でも、気持ちはまだ複雑です。

白鳥は哀しからずや空の青海のあをにも染まらずただよふ（若山牧水『海の声』）

第8回総会・懇親会スナッフ

2016年11月20日(日) 於アルカディア市ヶ谷

紙面の制約上、掲載写真が限られてしまいます。写真は他にもあります。

当会ホームページをご覧ください。 [八峰町ふるさと会](#) で検索

[ふるさと会ホームページ・メニュー](#) → [ふるさと会について](#) → [総会写真アルバム](#)



門脇副議長乾杯発声



加藤町長挨拶



神馬会長挨拶



おらほの館、白神八峰商工会による物産販売



雄島花火大会実行委員会のPR活動



きりたんぽのお替り！



お土産の袋詰め奮闘中



家族で、はいポーズ



今年も仲間と元気に再会



仲良く腕組み笑顔



昔話を肴にお酒も美味しい



笑顔でピース



仲良しのお二人



ご夫妻で参加



1年ぶりの再会に笑顔がこぼれます



抽選会で会長賞ゲット！



うしく河童鳴子会のよさこいソーラン踊り

ふるさと納税のご案内

八峰町へ10,000円以上寄付すると、町の特産品「ふるさと八峰プレゼント」がもらえます。「ふるさと八峰応援基金」に積み立てた寄付金で、平成27年に「ふるさと応援号(研修バス)」を購入しました。また、平成27年度は寄付件数934件/金額12,406,800円と大幅に増えました。皆様のご支援に感謝申し上げますとともに今後も引き続きご支援をよろしく願いいたします。

プレゼント品の詳細

パソコンかスマホで「八峰町ふるさと納税」で検索してください。

寄附先・お問い合わせ先

八峰町役場企画財政課 電話0185-76-4603 e-mail: kikaku@town.happou.akita.jp



広報『はっぼう』でみる 八峰町のイベント

広報『はっぼう』のお申し込みは
八峰町役場企画財政課まで
電話:0185-76-4603 FAX:0185-76-2113
年間購読2,000円(毎月1回発行)



4月 さくらまつり



4月 サケの稚魚放流



5月 ポンポコ山さ恋い、来い



7月 海の家「グリグリ」



8月 あわびの里づくり祭り



10月 シーサイドロードレース

第2回ダイワキスマスターズ2017(キス釣り大会)の全国決勝大会を峰浜海岸で開催!

定められた競技区間・競技時間内に釣り上げたシロギスの総重量を競う投げ釣りの全国大会。全国14会場から勝ち上がった選手が、更に3つのブロック大会で戦い、その選出選手に昨年(2016年)の優勝者1名を加えた16名が、9月22日(金)・23日(土)・24日(日)の3日間、峰浜海岸で決勝戦を戦った。

なぜ決勝戦に峰浜海岸が選ばれたのか?

昨年、新しく第1回キスマスターズを開催するに当たり、過去12回の大会で会場となっていない場所を探していたところ、①人工物がなく、大自然が残っている海岸であり、②男鹿半島と白神山地を望む絶好のロケーションであることから、まさに決勝戦にふさわしい砂浜として選定した(キスマスター事務局)。



2016年優勝者
亀田智浩さん

キス釣りのおもしろさは、投げたときの爽快感、小さなキスとは思えない大きなアタリ、シロギスの美しさとその食味にあります。

世界遺産白神山地を背にした全国の中でも数少ない素晴らしい景観の峰浜海岸で、シロギス釣りに挑戦してみたいいかがでしょうか。

お出かけください！

首都圏で行われる八峰町の催し物案内

◎八峰白神特産品フェア 第二弾

期日：平成29年10月4日(水)～10月6日(金)

10:00～16:00

場所：横浜市弘明寺(ぐみょうじ)商店街

京急弘明寺駅下車、徒歩3分

市営地下鉄弘明寺駅下車、徒歩0分

内容：果物、乾物などの試食・販売



武蔵小山商店街での特産品販売

◎町イチ！村イチ！2017

期日：平成29年12月2日(土)～12月3日(日)

12:00～19:00(土)／10:00～17:00(日)

場所：東京国際フォーラム 展示ホール

JR有楽町駅下車、徒歩1分

内容：全国300余町村の特産品の販売、郷土芸能披露



2016年ハタハタフェスティバルで2年連続
3回目のHATA-1グランプリ獲得

◎秋田・鳥取 うまいぞ！ ハタハタフェスティバル

期日：平成29年12月2日(土)～12月3日(日)

10:00～16:00(土)／10:00～15:00(日)

場所：お台場シンボルプロムナード公園の石と光の広場

交通：JRりんかい副都心線 国際展示場前駅、または
新橋発ゆりかもめで有明駅下車すぐ

首都圏秋田県人会連合会行事案内

◆第56回芸能大会

期日：平成29年10月1日(日)10:00～16:30

会場：文京区役所文京シビックセンター(小ホール)

東京メトロ南北線、丸ノ内線「後楽園駅」下車、徒歩1分

内容：民謡、歌謡、舞踊などの披露

講演会の申込先

八峰町関東ふるさと会副会長 麻木(あさき)

電話：03-3859-3660

※芸能大会の観覧は申込不要

◆平成29年度文化部イベント 講演「笑いと健康」

期日：平成29年12月9日(土)16:00～17:00

会費：1,000円

会場：アルカディア市ヶ谷 6F 霧島の間

地下鉄有楽町線・南北線 市ヶ谷駅、1またはA1出口

地下鉄新宿線 市ヶ谷駅、A1またはA4出口

JR中央線(各駅停車) 市ヶ谷駅

※上記出口から徒歩約2分

講師：上野泰夫(フリーアナウンサー)

懇親会(希望者のみ)：講演会終了後、同会場で

別途会費：6,000円

講師：上野泰夫プロフィール

元秋田放送アナウンサー。

秋田県書道連盟常任理事。(号・泰秋)

県展・全国書道展などで多数入賞、入選。

書道教室開設免許を取得。

日本笑い学会「笑学校」講師を務める。

「笑いと健康」をテーマに披露宴のエピソードやアナウンサーのこぼれ話、世相あれ

これ、接遇マナーなどを商工会、企業、

団体、病院、老人クラブ、町内会、公民館

その他で講演活動をしている。

四季の語り、
くつろぎのひととき。



<http://www.arcadia-jp.org>

BANQUET 宴会・会議 ACCOMMODATION 宿泊 RESTAURANT レストラン

JR線・地下鉄(有楽町線・新宿線・南北線) 市ヶ谷駅 徒歩2分

アルカディア市ヶ谷 私学会館

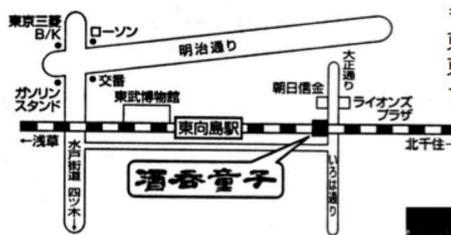
宴会予約直通 **03-6685-0540** 宿泊予約直通 **03-6685-0541**
〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25 TEL 03-3261-9921(代表)

秋田料理

各種御宴会の
御予約承ります。

酒香童子

ひ てん どり び



〒131-0032
東京都墨田区
東向島4-43-10
TEL.03-3619-1676

スカイツリーの
お隣元

スカイツリーきりたんぼ



姉妹店



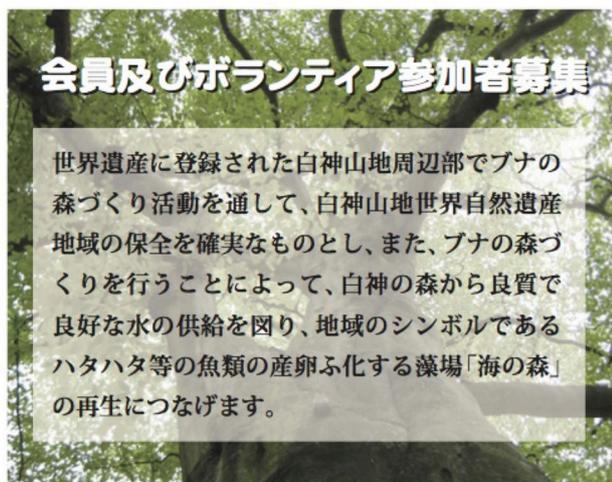
東京都墨田区東向島2-15-3
TEL.03-3616-8929
<交通> 東武伊勢崎線「曳舟駅」より徒歩1分



東京都墨田区東向島2-11-21
TEL.03-3612-4129
<交通> 東武伊勢崎線「曳舟駅」より徒歩2分

NPO法人 白神ネイチャー協会

白神ネイチャー協会の活動内容、入会申込等につまましては、下記までご連絡ください。



会員及びボランティア参加者募集

世界遺産に登録された白神山地周辺部でブナの森づくり活動を通して、白神山地世界自然遺産地域の保全を確かなものとし、また、ブナの森づくりを行うことによって、白神の森から良質で良好な水の供給を図り、地域のシンボルであるハタハタ等の魚類の産卵ふ化する藻場「海の森」の再生につなげます。

ブナ苗の里親を募集しています!!
白神山地 植えようブナを、育てようあなたの心

白神ネイチャー協会事務局

■TEL:0185-70-4211 ■FAX:0185-70-4214
■URL <http://www.shirakami.or.jp/~asna/index.html>

小物農機レンタル!

(レンタル機につきましては、1日以上とさせていただきます。)

背負動噴霧器	1日3,000円	2台	溝切機	乗用、ほか	1日5,000円	2台	
動力散布機	粉と粒	1日3,000円	2台	管理機	耕巾500mm	1日3,500円	3台
エンジンポンプ	φ25mm	1日2,000円	3台	高速洗浄機	エンジン付	1日3,500円	1台
刈払機	背負・肩掛	1日3,500円	5台	発電機	100V、220V	1日3,500円	1台
チェーンソー	中 型	1日3,500円	3台	ウイングモア	φ700mm	1日4,500円	1台
ハウス用オーガ	φ35mm	1日3,500円	1台	スプレッター	手 押	1日2,000円	1台

農家のパートナー 小物農機・販売サービス **AV アシザキ NOUKI**
〒018-2504 山本郡八峰町峰浜石川字外林33-21 TEL・FAX 0185-76-2884

病院からもらった処方箋の事など、
お薬のことなら専門の薬剤師が丁寧にご説明をいたします。



LINUS PHARMACY

ライナス薬局

TEL.0185-70-4160
FAX.0185-70-4170 八峰町八森字古屋敷13-6

月～土/朝8:00～夜7:00
休日/日・祝日

秋田・味めぐり一番所 はちもり



古来より、白神の里に伝わる伝承の味。
はたはたずし
秋田名物

(ハタハタ入り焼きかまぼこ・鱒ずし) 発送承ります!!

⊕ (株)鈴木水産

☎ 0120-022170 FAX 0185-77-3601

HPは「鈴木水産 秋田」で検索!

<http://www.suzuki-suisan.co.jp/>

白神山地の天然湧水仕込だけで
酒造りを行なう全国で唯一の蔵元



白 瀑

八峰町八森字八森269

TEL/0185-77-2311 FAX/0185-77-2312

ふるさとの味と香り、おいしさそのまま贈ります。



秋田名物
きりたんぼセット

地方発送
承ります

10月上旬から
2月下旬まで
発送いたします。

申し込みご予約は

TEL.0185-76-2529 FAX.0185-76-3156

〒018-2507

秋田県山本郡八峰町峰浜田中字大土面 17 レストラン 峰

ホームページ <http://www.shirakami.or.jp/~mine/>

能代名物

志んこ



本社・工場を移転しました



味と心で ごあいさつ

www.sekito.jp

● 上町本店 能代市上町 12-2
TEL 0185-55-0030

● パイパス店 能代市字下内崎 63-13
TEL 0185-52-1230

地方発送のご注文はこちらへ

TEL 0185-54-3131 ・ FAX 0185-54-2433

日本海と白神山地が出逢う宿

海の幸たっぷりのお料理とあったかい温泉で
心と体を癒してください

ご
宿
泊

- 美しい景色を一人占め
 - 特別な時間をゆったりと過ごす
- 八森いさりび温泉

ハタハタ館

ホームページ: <http://www.hatahatakan.jp/>

秋田県山本郡八峰町八森字御所の台51番地

TEL: 0185-77-2770(代)



地域と共に!



Panasonic エルポートシロキ

八峰町八森字中浜 TEL 77-2323・FAX 77-2324

子どもに夢を! 誇れる郷土を!
地域に活力を!

2018年

第32回雄島花火大会

8月15日打ち上げ(毎年)

雄島花火実行委員会

委員長 諸沢 英紀

白神の海と大地の夢を育む

白神八峰商工会

会長 大森 三四郎

秋田県山本郡八峰町八森字中浜 41-3

TEL:0185-77-3161 FAX:77-3008



あわびの里づくりまつり

平成30年8月上旬開催予定

☆参加者には2年後に「あわび」をお送りします。

おらほの館

地元野菜の直売とご当地ソフトクリーム

TEL0185-76-4649



おいしい

道のレストラン はっぼう ☎76-4455

八峰町峰浜沼田ホンコ谷地147-6 道の駅となり

いのちは次の世代へつながっている



株式会社

東日本メモリアルサービス

代表取締役 成田 竜也(旧鷹巣町出身)

東京オフィス: 〒116-0003 荒川区南千住6-30-12-203

秋田オフィス: 〒018-3315 秋田県北秋田市宮前町11-6

電話(フリーダイヤル): 0120-565-594

ご来場のみなさまへ、笑顔の「おもてなし」でご案内。

能代市新山前 建学会 好評開催中!

ウッドデッキ&フェンスで
6番目の部屋を実現!



和と洋が調和した
一度見たら住みたくなる家

木炭&ひば&珪藻土パワー!

暖かなるなる
直営の大工み
http://www.takajuu.co.jp

110年は時の流れを超えた絆です

高田住宅工業株式会社

ISO9001:2008取得 顧客の皆さまも満足できる品質を追求し、社会に貢献する

宅建物取引業 秋田県知事免許(9)1047号

本社/能代市昭南町7-1

TEL 0185-54-6518 FAX 0185-55-0750

不動産部/能代市昭南町7-1

TEL 0185-74-5044 FAX 0185-74-5043

峰浜本店/山本郡八峰町峰浜高野々字高野々43-1

TEL 0185-76-3493 FAX 0185-76-2186

秋田支店/秋田市八橋大沼町15-10

TEL 018-896-7773 FAX 018-896-7774

www.takajuu.co.jp

“最も美味しいきりたんぼ鍋”に
とことんこだわりました!!

お取り寄せ

「比内地鶏 きりたんぼ鍋セット」
2〜3人前 5,400円

- ・裁き立ての肉と丸ごと野菜
- ・毎日仕込む作り立てのスープ
- ・手造りの肉厚きりたんぼ



秋田比内地鶏生産責任者の店 【お問合せ】

本家あべや秋田店 018-825-1180

〒010-0001 秋田県秋田市中通1-4-3 エリアなかいち商業施設内1F

店頭にて「塩分感受性試験」(ご希望の方に) 行っております。

『在宅薬剤管理指導』行っております。

皆川薬局

秋田県糖尿病療養指導士

薬剤師 皆川鉄治・山脇一輝・北林真実

八峰町峰浜沢目駅前 TEL.76-2052・FAX.76-2199

営業時間 8:00~18:00 / 休業日 日曜日・祝祭日

白神山地から湧き出る天然水と、地元農家の青大豆のみを使用



究極の美味 グリーン豆腐

従来の豆腐より栄養価が高く
ほんのり緑色で甘味があり、こくが深く、
美味です。

◇◇◇◇◇松岡食品 おかげさまで創業69年を迎えました◇◇◇◇◇

〒018-2664 山本郡八峰町八森字古屋敷 43-3

松岡 清悦 ・ 松岡 清也

TEL 0185-77-2024 FAX 0185-77-3646

E-mail : info@matsuoka-foods.com



◆◆◆ 和洋菓子舗 ◆◆◆

八峰町のおみやげに



カステラドーナツ



チーズブッセ

美味しいお菓子の店

高峰堂

八峰町峰浜埜字豊後長根145 TEL 0185-76-2041

営業時間 7:00~19:30 不定休

あふれる緑、大地と共に輝く未来



秋田やまもと農業協同組合

本店 〒018-2104 秋田県山本郡三種町鹿渡字町後270

TEL:0185-87-4600 (代) FAX:0185-87-4200

代表理事組合長 米森 萬壽美



八峰支店 〒018-2503 秋田県山本郡八峰町峰浜埜字豊後長根65-1 TEL:0185-76-3151(代) FAX:0185-76-3959



日本海の旬の魚
家庭へ届けます

0185-77-2255



秋田県山本郡八峰町八森字横間 156 番地先

秋田県漁業協同組合
北部総括支所

第9回八峰町関東ふるさと会総会・懇親会案内

- ★開催日:平成29年11月19日(日)
- ★会場:アルカディア市ヶ谷
- ★受付:11時00分～
- ★総会:12時00分～12時30分
- ★懇親会:12時30分～15時30分
- ★懇親会費:6,000円(学生:3,000円、小学生以下:無料)
- ★年会費:1,000円
- ★会場へのアクセス
- 地下鉄有楽町線・南北線 市ヶ谷駅 1またはA1出口
- 地下鉄新宿線 市ヶ谷駅 A1またはA4出口
- JR中央線(各駅停車) 市ヶ谷駅
- ※上記出口から徒歩約2分



特別ゲスト:ほっと奏でいる

代表 小田嶋 幸次

《グループ紹介》

私は昭和47年3月高校卒業まで八森町椿台の発盛鉦山の社宅(長屋)で暮らしていました。鉦山勤めしていた両親は他界しましたが、祖父母子供たち4人、一懸命働いて育ててくれたことは生涯忘れません。歳を重ね、何十年かぶりに住んでいた場所へ行ってみました。上を見上げればぬかもり、下をのぞけば美しい黒砂の海岸、変わっていませんでした。

能代商業高校生時代、ハーモニカソサイテークラブに所属していました。今もフルート、クロマチックハーモニカ、クラシックギター、パーカッションの構成で、バンド名「ほっと奏でいる」5人で成田市とその周辺を中心に年数回コンサートをして好評を得ています。

この度は、同級生の紹介で、ふるさと会で演奏させていただくことになりました。アコースティックな音楽をモットーとしています。洋楽、POP、ジャズ、艶歌、クラシックと何でもほっと奏でいる風に演奏し、歌も交えてお贈りいたします。

小田嶋幸次



後列左から、小田嶋 幸次、椎名 修
前列左から、山田 桂子、今 均、中山 あすか

《メンバー紹介》

クロマチックハーモニカ	小田嶋 幸次
フルート	中山 あすか
クラシックギター	今 均
歌、PA、録音編集、写真	椎名 修
マネージャー兼パーカッション	山田 桂子

編集後記

加藤町長、芦崎議長をはじめ、多くの方々から寄稿をいただきました。お礼申し上げます。今回改めて実感したのは、表紙のそば畑やキス釣りの峰浜海岸が醸し出す自然の豊かさ、広報『はっぼう』が報じる年間催事の賑やかさ、ふるさと会総会の特産品の特有さと出席者の活発さ、寄稿から読み取れる歴史の奥深さなど。ふるさと会は、年に一度の“お祭り”だと思う。『はたはた』は、今後も“八峰”の絆を確認し、醸成し合える存在であり続けたいと願う。(須藤)

八峰町関東ふるさと会・役員一覧

会 長	神馬 信一
副 会 長	麻木 固磨、内山 由子、北郷 洋子、戸田 眞里
幹 事	成田 勘一
副 幹 事	芹田 忍、船越 鉄美
幹 事	飯田 良子、黒浜 茂子、白木 仁、須藤 正喜 丹波 テツ子、塚本 薫、塚本 康子、 本多 義春、三浦 博、吉江 后子
監 査	菊地 弘美、鈴木 輝志郎
顧 問	富岳 智猛、藤田 秀夫、秋山 芳輝

八峰町関東ふるさと会事務局

〒184-0001
東京都小金井市関野町1-3-35 成田 勘一方
TEL/FAX 042-383-0278

- ◆ 発行:八峰町関東ふるさと会
- ◆ 発行責任者:神馬 信一
- ◆ 編集委員:須藤 正喜、飯田 良子、白木 仁、
芹田 忍、成田 勘一